

満月が交通事故の原因に？

いつの頃からか、毎回の満月に名前が付けられるようになりましたね。ちなみに6月の満月は29日で『ストロベリームーン』（イチゴの収穫期にちなむ）と呼ばれます。そして7月29日の『バックムーン』（雄鹿の角が再び伸び始める時期）、8月28日の『スタージョンムーン』（チョウザメ漁が盛んな季節）は、スーパームーンとされ、7月・8月の順に最も地球に近い満月になります。人は古来より、月の満ち欠けに関心と想像力をかき立てられてきました。



◆満月が交通事故と関係がある？

満月そのものが事故を引き起こすわけではありませんが、いくつかの理由が考えられます。

・明るさの影響で距離感が狂いやすい

満月の夜は街灯が少ない場所でも周囲が明るく見えます。



そのため、「見えているつもり」になり、スピードが出やすくなります。



・夜空や月に視線が向きやすい

満月はつい見とれてしまいます。ほんの一瞬の“よそ見”が事故につながることもあります。

・動物の動きが活発になる

満月の夜は野生動物が活動しやすく、山間部や郊外では道路への飛び出しに注意が必要です。



◎満月の夜に気を付けたい運転ポイント

- ・スピードは控えめに。明るく見えても、路面状況は昼間より見えにくい。
- ・対向車のライトに注意。明るい夜はライトの眩しさを感じやすくなります。
- ・明るい夜でも、車間距離はしっかりととりましょう。



余談ですが「満月になると右脳と左脳の働きが逆になる」という話を耳にしたことはありませんか。脳がいつもと違う働きをすることで事故につながる、という説もありますが、科学的根拠はなく、都市伝説に近いものとされています。



満月の夜はいつもと少し違う環境になります。「今日は満月だな」と気づいたら、いつもよりゆっくり、落ち着いた運転を心掛けてみてください。小さな意識が、大きな安全につながります。